

<南吉と盆踊りについて>

新美南吉の日記より（昭和8年・20歳）

- ・かつひことT君と三人で常福院の踊のけいこを見に行ったら、盛一君、吉兵エ君にあった。（8月16日）
- ・小学校へ行って本多さんから新作盆踊りをおそわった。（8月17日）
- ・夜順正寺へ行って新作盆踊りの歌を覚えて来た。（8月18日）
- ・夜ごと夜ごと踊りに弟とゆくピエロの私。笑う人は笑え。そしる人はそしれ。芸術も何も解らない、踊りの曲折にそうてゆくにはあまりに骨の固い人々を私はどうしてさげすみきらうことが出来よう。…（8月22日）

<岩滑の盆踊唄「シヨンガイナー」について>

『やなべの歩み』（昭和60年・岩滑コミュニティ推進協議会）より

盆の十五日の夕方、青年たちが、現岩滑中町七丁目のシマヤの辻に集まり、シヨンガイナーを踊ったあと、浄土宗の新仏のある家へ出かけていき、庭で供養のためにシヨンガイナーを踊った。しばらく踊ると、その家の人が仏壇に供えてある送りだんごや菓子、果物等をお礼に出す。これを出さないと

「やれそれ送りだんごよこせ・・・」とはやしたてる踊りがはじまる。

子どもたちも、この踊りについて村々を廻り、おかざりの送りだんごであるおてっぽやトマト、うりなどの果物をわけてもらうしきたりになっていた。村をひと廻りすると常福院へ集まり、子どもや村の人たちも輪になって夜おそくまで踊りあかすことになっていた。

「シヨンガイナー」の歌詞

ナーアー

盆が来たとしてナー 何うれしかろ かさねかたびら 着るじゃなし

シヨンガイナー ああ盆だい 盆だい

ナーアー

踊り上手で 気前が良くて 仕事自慢の 嫁ほしや

シヨンガイナー ああ盆だい 盆だい

ナーアー

今年しゃ世が世で としよりが騒ぐ 吊るくし大根に 花が咲く

シヨンガイナー ああ盆だい 盆だい

ナーアー

二人仲良く 手すりにもたれ 見るも嬉しい 月見橋

シヨンガイナー ああ盆だい 盆だい ……（続く）

※歌詞はその時々自由にアレンジして歌われていました。